

令和5（2023）年度 スポーツ庁委託事業

令和5年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者スポーツ  
の指導・普及等のためのマニュアル等の作成）」

# 成果報告書

2024年4月  
（筑波大学）

本報告書は、スポーツ庁の委託事業として、筑波大学が実施した令和5年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者スポーツの指導・普及等のためのマニュアル等の作成）」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

# 目 次

1. はじめに	1
2. 本事業の概要	2
3. 事業実施者（プロジェクトメンバー）	5
4. 本事業の内容	6
4-1. 事業実施の背景と目的	6
4-2. 定着研修会 WG	8
1) 活動概要	
2) 活動目標	
3) WG メンバー	
4) 活動内容	
5) まとめ	
6) 今後の課題	
4-3. 教材コンテンツ WG	28
1) 活動概要	
2) 活動目標	
3) WG メンバー	
4) 活動内容	
5) まとめと今後の課題	
5. 今後の課題	34
6. 附録資料	35
6-1. 有識者会議議事メモ	35
6-2. アダプテッド定着研修マニュアル	(別冊)

## はじめに

事業実施責任者 齊藤まゆみ

令和5年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者スポーツの指導・普及等のためのマニュアル等の作成）」は、障害者スポーツの指導・普及に向けた教員に対する研修の実施のためのマニュアル作成を主たる課題として進めて参りました。

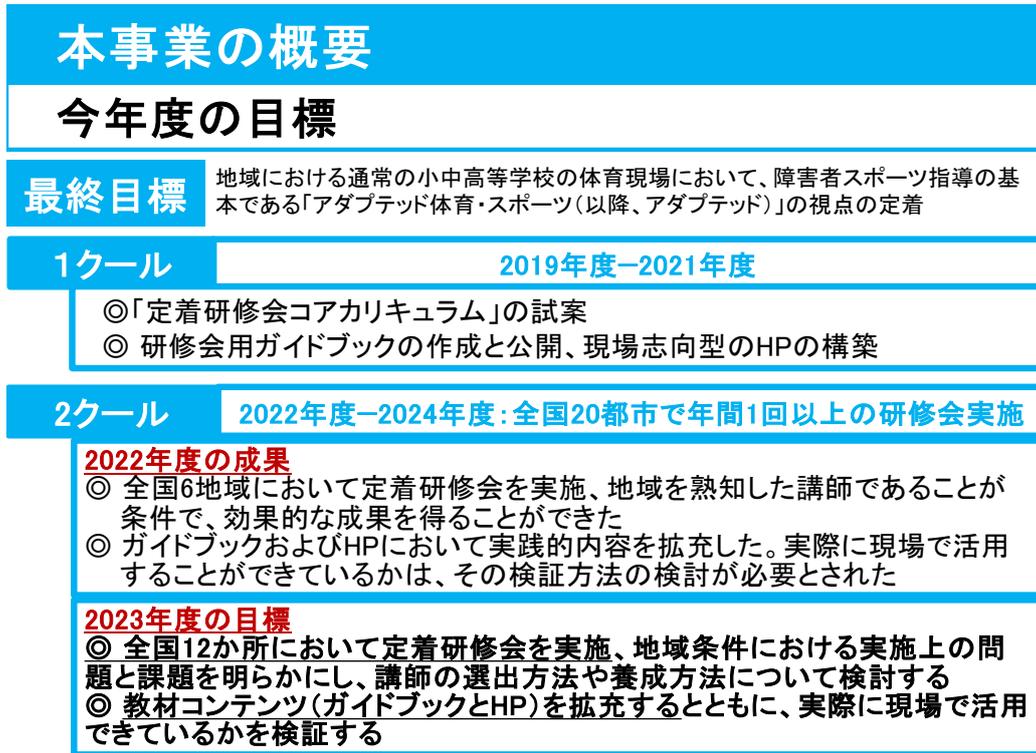
私どもは地域における通常の小中高等学校の体育現場において、障害者スポーツ指導の基本である「アダプテッド体育・スポーツ（以降、アダプテッド）」の視点が定着することを最終目標とした長期計画をたてました。今年度は、第2クール（2022年度-2024年度）の2年目になります。検討課題1として、地域の小学校教員を主な対象とした定着研修会を全国14か所で実施し、定着研修会でのコアカリキュラムをもとにした「講師向けのマニュアル試案」を構築することとしました。そして検討課題2として、教材コンテンツWGを設置し、学校教育現場でアダプテッドを日常的に実践できるための教材コンテンツ学校教育現場でアダプテッドを日常的に実践できるための教材コンテンツ（ガイドブックの公開、HPコンテンツ「Challenge アダプテッド；<https://adaptedproject.jimdofree.com>」の構築など）の企画および開発を行い、これらが実際に現場で活用できているのかを検証して参りました。まだ進行中のプロジェクトですので、得られた知見をみなさまにご活用いただき、ご意見を頂戴できれば幸いです。

本プロジェクトは、筑波大学と国内におけるアダプテッド体育・スポーツ学に関わる学術団体、教育現場との有機的連携で進められました。この報告書には、スポーツを通じた共生社会の実現という社会的課題に応えるべく、大学の垣根を超えてスペシャリストが知恵を出し合い、さらにワーキンググループによる試行・実践を経た評価をもとに導かれた内容がまとめられています。地域における通常の小中高等学校の体育現場において、アダプテッドの視点が定着するための基礎資料として活用されることを期待しています。

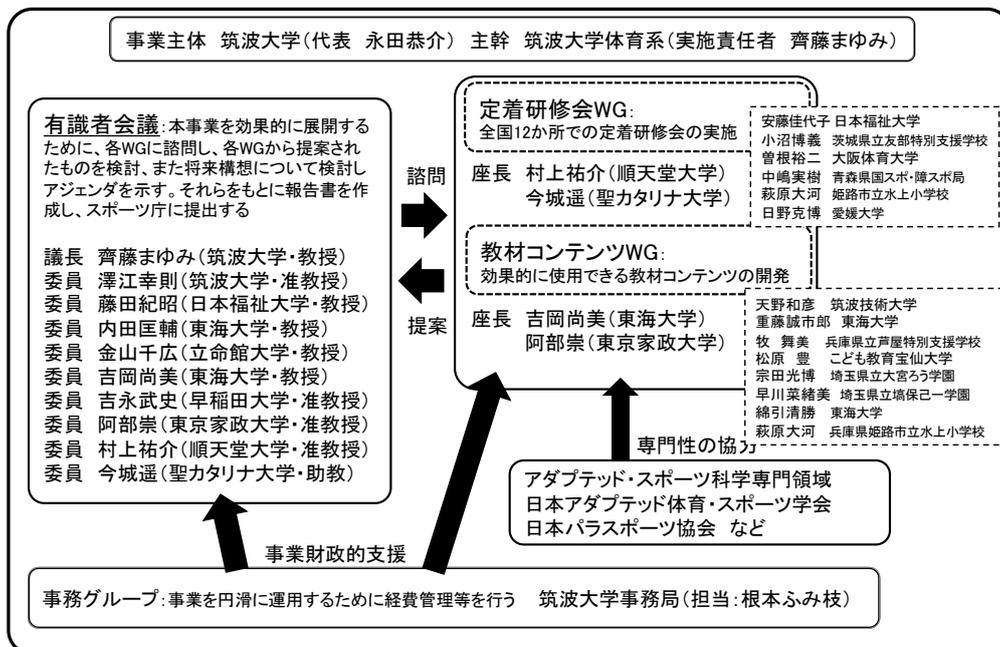
最後になりましたが、本事業にご協力いただきました多くの方々に感謝いたします。

2024年3月

## 2. 本事業の概要



## プロジェクトメンバー



## 定着研修会WG

### アダプテッドの視点の浸透に向けた研修会の全国展開

#### ＞ 活動概要

昨年度の事業で、我々が作成した研修会コアカリキュラムが様々な地域の研修会でも有効であることが確認された。そこで今年度は、さらなる研修会の全国展開を進めていくために、全国の13か所で研修会を実施した(北海道・東北2件、関東3件、中部1件、関西2件、中国・四国3件、九州2件)。研修会の受講者は合計857名で、アンケート回答者は515名であった。

#### ＞ 研修会の内容

【講義】インクルーシブ体育の意義と理念  
【演習】アダプテッド演習、インクルーシブ演習

#### ＞ 評価方法

アダプテッド・センシティブ尺度(AS尺度)による評価

#### ＞ 考察および効果の検証

13か所全ての研修会において望ましい変化が確認された。これまで作成してきた研修会コアカリキュラムは、全国の様々な地域においても効果が実証された。今後は研修会用の指導者マニュアル(試案)を作成し、各地域において研修会の講師を養成することができるように具体的に取り組んでいきたい。

#### 千葉県での研修会の事前事後の変化(n=55)

	事前	事後	T値
アダプテッドの理解度(4点満点)	1.76±0.79	3.82±0.51	17.11**
インクルーシブの理解度(4点満点)	3.27±0.62	3.84±0.37	6.33**
障害のポジティブイメージ(6点満点)	2.73±1.82	4.76±1.36	8.46**
障害者スポーツのポジティブイメージ(6点満点)	4.85±1.33	5.16±1.08	1.84
アダプテッド体育の主体性(6点満点)	3.16±1.48	4.07±1.49	3.44**
アダプテッド体育への実践力(6点満点)	5.67±0.67	5.89±0.31	2.57*

\*\* p<.01, \* p<.05

## 教材コンテンツWG

### アダプテッドを理解する導入としての役割を果たす教材の拡充

#### HPのアダプテッド活動例紹介動画コンテンツとガイドブックの拡充

HPのアダプテッド活動例紹介動画とガイドブックの内容を拡充し、随時公開した。2023年度は、視覚障害、聴覚障害、知的・発達障害、肢体不自由、病弱・虚弱の5カテゴリーで、新たに障害起因別(脊椎損傷等)コンテンツを加えた11種目の教材を作成した。

### アダプテッド定着研修会における教材の活用

#### HP教材コンテンツとガイドブックの活用

定着研修会WGとの連携を深め、2023年度に実施されたアダプテッド定着研修会において、HPで公開している紹介動画とガイドブックを教材として活用した。理論ならびに実技講習で有効であった。

### 教材コンテンツの評価測定

#### HP教材コンテンツとガイドブックの評価測定

2023年度に実施されたアダプテッド定着研修会6か所において、教材コンテンツの内容に関する調査を実施し、324件の有効回答を得た。教材に関しては4段階スケールで3.43～3.77の評価を受けた。自由記述より、教員の困り感や希望するコンテンツを把握できた。

### 今後の取組み

### 教材コンテンツの更なる拡充

## 本事業の概要

### 次年度の課題

#### 最終目標

地域における通常の小中高等学校の体育現場において、障害者スポーツ指導の基本である「アダプテッド体育・スポーツ(以降、アダプテッド)」の視点の定着

#### 1クール

2019年度-2021年度

- ◎ 「定着研修会コアカリキュラム」の試案
- ◎ 研修会用ガイドブックの作成と公開、現場志向型のHPの構築

#### 2クール

2022年度-2024年度: 全国20都市で年間1回以上の研修会実施

##### 2022年度の成果

- ◎ 全国複数か所での研修会を通してコアカリキュラムの効果を確認
- ◎ 教材コンテンツ(ガイドブックとHP)の作成、拡充と検証方法の検討

##### 2023年度の目標

- ◎ 全国13か所において定着研修会を実施
- ◎ 教材コンテンツの効果検証を実施し、教育現場への効果を確認
- ◎ 研修会講師用の指導マニュアル(試案)を作成

##### 2024年度の目標

- ◎ 指導マニュアル(試案)を活用した全国展開と効果検証
- ◎ 教材コンテンツの拡充と教育現場での実践例の情報収集

### 3. 事業実施者

阿部 崇	東京家政大学	准教授（教材コンテンツ WG 座長）
天野 和彦	筑波技術大学	准教授（教材コンテンツ WG 委員）
安藤佳代子	日本福祉大学	准教授（定着研修会 WG 委員）
今城 遥	聖カタリナ大学	助教（定着研修会 WG 座長）
内田 匡輔	東海大学	教授（有識者会議委員）
小沼 博義	茨城県立友部特別支援学校	校長（定着研修会 WG 委員）
金山 千広	立命館大学	教授（有識者会議委員）
齊藤まゆみ	筑波大学	教授（代表・有識者会議座長）
澤江 幸則	筑波大学	准教授（渉外担当・有識者会議委員・各 WG オブザーバー）
重藤誠市郎	東海大学	研究補助職員（教材コンテンツ WG 委員）
曾根 裕二	大阪体育大学	准教授（定着研修会 WG 委員）
中嶋 実樹	青森県国スポ・障スポ局総務企画課	主幹（定着研修会 WG 委員）
萩原 大河	兵庫県姫路市立水上小学校	教諭（定着研修会 WG 委員）
早川菜緒美	埼玉県立特別支援学校塙保己一学園	教諭（教材コンテンツ WG 委員）
日野 克博	愛媛大学	教授（定着研修会 WG 委員）
藤田 紀昭	日本福祉大学	教授（有識者会議委員）
牧 舞美	兵庫県立芦屋特別支援学校	教諭（教材コンテンツ WG 委員）
松原 豊	こども教育宝仙大学	非常勤講師（教材コンテンツ WG 委員）
宗田 光博	埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園	教諭（教材コンテンツ WG 委員）
村上 祐介	順天堂大学	准教授（定着研修会 WG 委員）
吉岡 尚美	東海大学	教授（教材コンテンツ WG 座長）
吉永 武史	早稲田大学	准教授（有識者会議委員）
綿引 清勝	東海大学	講師（教材コンテンツ WG 委員）

（2024 年 3 月 31 日現在）

## 4. 本事業内容

### 4-1. 事業実施の背景と目的

スポーツを通じた共生社会の実現に向けて、日本各地において障害者が健常者と同様にスポーツを親しめるようにすることの実現が求められています。加えて、「第2期スポーツ基本計画」で指摘されているように、特別支援学校以外の学校に在籍する障害児も含めたすべての子どものための体育・スポーツ活動についても、現状の課題や全学校種の教員向けの研修等の推進の必要性等が指摘されています。一方、それらを推進するためのリーダー的存在、つまり障害児のための体育、アダプテッド体育・スポーツやインクルーシブ体育・スポーツの視点や技術を、各地域の学校に定着していくための指導者（以下、講師）が不足していることも指摘されています。

そこでわれわれは、地域における通常の小中高等学校の体育現場において、障害者スポーツ指導の基本である「アダプテッド体育・スポーツ（以降、アダプテッド）」の視点が定着することを最終目標とし、2030年に、地域の通常の小中高等学校の少なくとも体育授業を担当している教員のうち、9割が障害のある子どもを受け持つことに対して抵抗感を感じず、8割が障害のある子どもに指導することに不安を感じないで、7割が「アダプテッド」の用語を聞いたことがあるなかで、6割が、アダプテッドの視点をもって指導できるという数値目標を立てました。

上記の目標を達成するために、2019年からの3年間で、定着研修会コア・カリキュラムの作成およびガイドブックとホームページによる教材コンテンツの構築を行いました。まず定着研修会コア・カリキュラムの作成では、教員免許更新講習会で標準的に実施される6時間の研修会を想定したカリキュラムを作成し、その効果を検証しました。さらに、様々な時間枠で実施される研修会を想定し、1.5時間や3時間などの幅広い研修会に応用できるカリキュラムであるかどうかを検証しました。一方、ガイドブックとホームページによる教材コンテンツの構築では、研修会での一過性の学びに加えて、その後の主体的な実践に活用できる教材として、各種障害や実施する種目等に応じたコンテンツの基礎を構築することができました。

以上の3年間の成果を踏まえ、2022年度から2025年度の3年間では、全国20都市における定着研修会の開催と自走に向けた組織づくりの検討を進めることとしました。そして2022年度は、検討課題1として全国を6ブロックの地域に分け、地域の小学校教員を主な

対象に定着研修会を年に1回実施し、地域条件における実施上の課題を明らかにしました。そして検討課題2として教材コンテンツWGを設置し、学校教育現場でアダプテッドを日常的に実践できるための教材コンテンツ(ガイドブックの公刊、HPコンテンツの構築など)の企画および開発を行い、これらが実際に現場で活用できているのかを検証しました。

以上の経緯から、2023年度は、検討課題1として地域の小学校教員を主な対象とした研修会を全国12か所で実施することを目指しました。また検討課題2では、教材コンテンツWGにおいて動画コンテンツとガイドブックの項目を増やすとともに、研修会WGと連携しながらより広く教育現場に浸透させることを目指すこととしました。そして、検討課題1と検討課題2の成果をもとに、今後研修会の講師の養成を進めるために必要な研修会用の指導者養成マニュアルを作成することとしました。

#### 【2023年度検討課題】

検討課題1：全国の12か所において、地域の小学校教員を主な対象に定着研修会を年に1回実施し、地域条件における実施上の問題と課題を明らかにする。

検討課題2：学校教育現場でアダプテッドを日常的に実践できるための教材コンテンツ(ガイドブックの公刊、ホームページコンテンツの構築など)の開発を進めるとともに、教育現場においてそれらのコンテンツが活用できるかを検証する。

検討課題3：検討課題1および検討課題2の成果に基づく研修会用の指導者養成マニュアルについて実行委員会で審議し、その内容の妥当性について検証する。そして、最終目標の達成に向けた将来構想(研修会や教材コンテンツの管理およびホームページの運営などを行う組織の在り方、教員養成課程におけるカリキュラム提案等)におけるアジェンダを示す。

## 4-2. 定着研修会 WG

### 1) 活動概要

定着研修会 WG では、教員を対象とした研修会を通じて、アダプテッド体育・スポーツの理解を促進し、インクルーシブな体育授業の実践ができる教員を育成することを目指しています。そして、全国的に学校現場にアダプテッド体育・スポーツ（以下、アダプテッド）の視点を浸透させていくために、指導力向上の研修会や講習会の講師となるリーダー的人材の育成及び確保に向けて、その手法を検討しています。2019年からの3年間で、アダプテッドの視点を定着させるための定着研修会プロトタイプをもとにした多様な研修タイプの効果の一端を明らかにすることができました。具体的には、2019年度から開発をはじめた「定着研修会コアカリキュラム」を軸とし、2021年度には異なる研修時間に応じた効果的な研修内容の検証を行いました。教員免許更新講習会（2022年7月廃止）を想定した6時間の研修会、大学等の主催で実施される12時間（2日間）の研修会、一般的な半日タイプの3時間の研修会、そして校内研修等で実施される1.5時間の研修会が行われ、それぞれにおいて研修会のニーズや限られた時間の中で効果的な研修会を実施する方法を開発することができました。

以上の成果を踏まえ、2022年度からの3年間（2022年度から2024年度）では、研修会を通じたアダプテッドの視点の浸透に向けての全国展開を目指すこととしました。具体的な目標として、全国大都市に該当する20都市（総務省、2010）で地域の小学校教員を主な対象とした研修会を年間1回以上実施することを掲げました。1年目の2022年度は、全国の6か所で研修会を実施することができ、合計387名の参加者に対して研修会を実施しました。また事前事後アンケートの回答者は合計230名でした。いずれの研修会も一定の効果が確認されました。それを受け、今年度（2023年度）は、全国12か所での研修会を目標として設定することとしました。それらの研修会の効果を検証するとともに、指導者養成の観点から研修会の内容を整理し、今後始めて研修会の講師を担当する人が活用できる指導者養成マニュアルの作成を試みることにしました。

図1は、これまでの成果をもとに作成された2023年度版の定着研修会コアカリキュラムです。これらの内容を軸とし、2023年度の各研修会を実施していくこととしました。

## 【 定着研修会コアカリキュラムと具体例 】

定着研修会コアカリキュラム	具体例等
(1) アダプテッドの理論的位置づけ (講義)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 項目例) ※ガイドブック理論編より</li> <li>・スポーツをすることは人権</li> <li>・障害のある人のためのインクルーシブ教育</li> <li>・障害のある子どもたちの声</li> </ul>
(2) 障害児体育の実態の理解 (講義)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インクルーシブな体育を実現するには</li> <li>・アダプテッドとは？アダプテッドの理論</li> <li>・アダプテッドと合理的配慮</li> </ul>
(3) アダプテッドに特化した演習 (演習)	<p>スポーツの魅力を阻害するものを取り除くアダプテッドの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 演習例)</li> <li>・車いすの人がバレーボールを楽しむには？</li> <li>・知的障害のある子どもへの発達段階に応じた指導とは？</li> </ul> <p>※研修の時間や内容に応じて教材コンテンツを活用する 例) ガイドブックをもとにグループでディスカッション 例) ホームページの教材に基づいた授業を実際に行い、さらに自分たちで発展的な内容を考える</p>
(4) インクルーシブに特化した演習 (演習)	<p>活動するうえでの「違い」を前提とした活動内容の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 演習例)</li> <li>・おにごっこなどの遊びを障害のある子どもと一緒に楽しむには？</li> <li>・各種スポーツ(自分の専門種目)を「違い」を前提として楽しむには？</li> </ul> <p>※研修の時間や内容に応じて教材コンテンツを活用する 例) ガイドブックをもとにグループでディスカッション 例) ホームページの教材を実際に行い、さらに自分たちで発展的な内容を考える</p>

### 定着研修会の実施における確認事項

- 「アダプテッドの理論的位置づけ」や「障害児の体育の意義(「アダプテッド」と「インクルーシブ」の関係性)」は研修の一部に必ず入れる
- アダプテッド演習については、障害種や扱う運動課題などを具体的に設定し、主に個にアダプテッドする方法を考  
→ その際、アダプテッドは「試行錯誤、トライ&エラーの連続」であることを強調し、例えば3段階(自分で考える→グループで考える(やってみる)→他のグループの考えをもとにさらに再考する)を設定で
- インクルーシブ演習については、例えば「自分が担当している通常級で、支援級の子どもも含めたインクルーシブな体育授業を行う場合にどうするか」のような具体的な場面の解決につながる内容にすると入りやすいのではない  
→ その際、アダプテッド演習と同様に、「試行錯誤、トライ&エラーの連続」であることが伝わるように段階的に設定できるとよい

2

図1 定着研修会コアカリキュラム 2023年版と具体例

### ① 研修会の方針

全国 12 か所を目標とし、小学校の教員を主な対象とした研修会を実施する。様々な時間に応じた研修会の効果を検証するとともに、地域条件における実施上の問題と課題を明らかにする。

### ② 研修内容

昨年度（2022 年度）の成果として得られた「定着研修会コアカリキュラム 2023 年版」（上記の図 1）に沿って講義および演習を行うが、担当する講師の判断で内容を変更してもよい。

### ③ 研修方法

講義および演習による研修を行う。感染症の感染拡大等によりオンラインとなる場合は、昨年度の研修内容を踏まえて内容を工夫して実施する。

### ④ 対象となる研修会

地域の条件や特性に合わせた研修会を目指すために、各地域の教育委員会等が主催する研修会と連携して研修会を実施する。

### ⑤ 研修会講師

各地域で先進的な取り組みを行っている専門家を研修会の講師とすることが望まれるが、現状はそのような土台が整っていないため、本 WG メンバーや実行委員会のメンバーが主に講師を担当する。

### ⑥ 研修会の評価

研修の前後に 10 分程度時間をとり、事前事後のアダプテッド・センシティブ尺度（AS 尺度）によって評価を行う。また自由記述による感想などがある場合は、それらも評価の参考資料とする。

## 2) 活動目標

地域の小学校教員を主な対象とし、昨年度までの成果である「定着研修会コアカリキュラム 2023 年版」に基づいた研修会の効果を検証するとともに、各地域条件における実施上の問題と課題を明らかにし、講師の選出方法や養成方法について検討することにした。

## 3) WG メンバー

以下のメンバーで組織することとしました。

安藤佳代子	日本福祉大学
今城遥	聖カタリナ大学（座長）
小沼博義	茨城県立友部特別支援学校
曾根裕二	大阪体育大学
中嶋実樹	青森県国スポ・障スポ局 総務企画課 障スポグループ
萩原大河	兵庫県姫路市立水上小学校
日野克博	愛媛大学
村上祐介	順天堂大学（座長）
澤江幸則	筑波大学（オブザーバー）

#### 4) 活動内容

今年度の事業開始に伴い、実行委員会および定着研修会 WG から関連する研修会の情報収集を行った結果、今年度は合計 13 か所の研修会を対象とすることができました。内訳は、北海道・東北ブロック 2 件、関東ブロック 3 件、中部ブロック 1 件、関西ブロック 2 件、中国・四国ブロック 3 件、九州ブロック 2 件となりました。研修会の受講者数の合計は 857 名であり、事前事後のアンケート回答者は合計 514 名でした。

- 【研修会 a】 関東ブロック・A 県総合教育センター主催の研修会
- 【研修会 b】 関東ブロック・B 県教育委員会主催の研修会
- 【研修会 c】 関西ブロック・C 県 c 市立中学校区の研修会
- 【研修会 d】 四国ブロック・D 県中学校教育研究会主催の研修会
- 【研修会 e】 九州ブロック・E 県体育研究所主催の研修会
- 【研修会 f】 四国ブロック・F 県小学校体育連盟主催の研修会
- 【研修会 g】 関西ブロック・G 県 g 市人権研究会主催の研修会
- 【研修会 h】 関東ブロック・H 大学主催の公開講座
- 【研修会 i】 東北ブロック・I 県教育委員会主催の研修会
- 【研修会 j】 中国ブロック・J 県障がい者スポーツ協会主催の研修会
- 【研修会 k】 東北ブロック・K 県教育委員会主催の研修会
- 【研修会 l】 九州ブロック・L 県教育委員会主催の研修会
- 【研修会 m】 中部ブロック・M 県体育センター主催の研修会

#### 4-1) 【研修会 a】 関東ブロックの A 県 a 市教育委員会主催の研修会

①日時 2023 年 7 月

②場所 A 県内のスポーツ施設の体育館

③対象 教員 55 名（アンケート回収 55 名）

内訳：特別支援学校 31 名、小学校通常学級 9 名、小学校特別支援学級 6 名、  
中学校通常学級 2 名、高等学校 7 名

④定着研修会としての構造

表 1 研修会 a のカリキュラム構造

時間	研修会としての行程	定着研修会としてのカリキュラム
9:40	はじめに アンケート説明	事前アンケート記入
9:40   12:30	【講義】 1. アダプテッドとは その理念と実践 2. 運動発達の視点からの支援～発達性協調運動障害とは～ 3. 教材コンテンツを活用した演習(約30分)	障害児の体育指導の意義と理念 インクルーシブ教育とは アダプテッドとは
13:30   16:20	【実技演習】 1. 運動発達特性に応じたアダプテッドの実践 2. インクルーシブの体育実践を考える	アダプテッド演習 インクルーシブ演習
16:20	まとめ	事後アンケート記入
16:30	終了	

⑤定着研修会の評価

表 2 研修会 a 受講者の尺度得点の変化 (n=55)

対応のあるT検定(すべてdf = 54)

	事前	事後	T値
アダプテッドの理解度(4点満点)	1.76±0.79	3.82±0.51	17.11**
インクルーシブの理解度(4点満点)	3.27±0.62	3.84±0.37	6.33**
障害のポジティブイメージ(6点満点)	2.73±1.82	4.76±1.36	8.46**
障害者スポーツのポジティブイメージ(6点満点)	4.85±1.33	5.16±1.08	1.84
アダプテッド体育の主体性(6点満点)	3.16±1.48	4.07±1.49	3.44**
アダプテッド体育への実践力(6点満点)	5.67±0.67	5.89±0.31	2.57*

\*\*  $p < .01$ , \*  $p < .05$

#### 4-2) 【研修会 b】 関東ブロック・B 県教育委員会主催の研修会

①日時 2023 年 7 月

②場所 B 県内の体育施設の体育館

③対象 教員 60 名（アンケート回収 20 名）

内訳：特別支援学校 16 名、小学校通常学級 1 名、中学校通常学級 2 名、  
高等学校 1 名

④定着研修会としての構造

表 3 研修会 b のカリキュラム構造

時間	研修会としての行程	定着研修会としてのカリキュラム
13:30   14:45	【講義】 1 私とアダプテッド・スポーツ（自己紹介） 2 スポーツをすることは人権 3 障害のある人のためのインクルーシブ教育 4 障害のある子どもたちの声 5 インクルーシブな体育を実現するには 6 アダプテッドとは？アダプテッドの理論 7 アダプテッドと合理的配慮 8 アダプテッドの進め方	事前アンケート記入  障害児体育の実態の理解 アダプテッドの理論的位置づけ
15:00   16:15	【演習】 1. アダプテッド演習 2. インクルーシブ演習	アダプテッド演習 インクルーシブ演習
16:15   16:30	【講義】 まとめ	事前アンケート記入

⑤定着研修会の評価

表 4 研修会 b 受講者の尺度得点の変化 (n=20)

対応のあるT検定(すべてdf = 19)

	事前	事後	T値
アダプテッドの理解度(4点満点)	1.80±0.89	3.95±0.22	10.30**
インクルーシブの理解度(4点満点)	3.65±0.49	3.95±0.22	2.85*
障害のポジティブイメージ(6点満点)	3.21±1.77	4.80±1.51	3.39**
障害者スポーツのポジティブイメージ(6点満点)	4.45±1.57	5.25±0.44	2.06
アダプテッド体育の主体性(6点満点)	2.90±1.21	4.20±1.28	3.11**
アダプテッド体育への実践力(6点満点)	5.72±0.46	5.95±0.22	2.52*

\*\*\* $p < .001$ , \*\* $p < .01$ , \* $p < .05$

4-3) 【研修会 c】 関西ブロック・C 県 c 市立中学校区の研修会

- ①日時 2023 年 7 月
- ②場所 c 市立中学校体育館
- ③対象 教員 90 名（アンケート回収 31 名）
- ④定着研修会としての構造

表 5 研修会 c のカリキュラム構造

時間	研修会としての行程	定着研修会としてのカリキュラム
9:10 ~ 10:20	<b>【講義】</b> ・ 体育スポーツにおけるルールの考え方 ・ パラスポーツにみる工夫 （アダプテッドスポーツとは？） ・ 合理的配慮と基礎的環境整備 ・ インクルーシブな体育・スポーツの実践に向けて	事前アンケート記入  障害児体育の実態の理解 アダプテッドの理論的位置づけ
10:50 ~ 11:40	<b>【演習・実技】ボッチャ</b> ・ ボール慣れ ・ 投球練習（紙乗せゲーム） ・ ミニコートでのゲーム	インクルーシブ演習  アダプテッド演習  HPの紹介 事後アンケート記入

⑤定着研修会の評価

表 6 研修会 c 受講者の尺度得点の変化

研修会の評価 (n=46) 講義のみ

	事前	事後
アダプテッドの理解度 (4点満点)	1.83±0.88	3.73±0.50
インクルーシブの理解度 (4点満点)	3.13±0.72	3.77±0.42
障害のポジティブイメージ (6点満点)	2.71±1.36	4.74±1.60
障害者スポーツのポジティブイメージ (6点満点)	4.33±1.55	4.93±1.14
アダプテッド体育の主体性 (6点満点)	3.09±1.67	4.35±1.42
アダプテッド体育への実践力 (6点満点)	5.59±0.72	5.74±0.93

研修会の評価 (n=31) 講義+実技

	事前	事後
アダプテッドの理解度 (4点満点)	1.68±0.75	3.80±0.41
インクルーシブの理解度 (4点満点)	3.16±0.78	3.83±0.41
障害のポジティブイメージ (6点満点)	2.71±1.10	4.77±1.23
障害者スポーツのポジティブイメージ (6点満点)	5.06±0.93	5.39±0.50
アダプテッド体育の主体性 (6点満点)	3.68±1.64	4.67±1.21
アダプテッド体育への実践力 (6点満点)	5.32±1.14	5.97±0.18

4-4) 【研修会 d】 四国ブロック・D 県中学校教育研究会主催の研修会

- ①日時 2023 年 7 月
- ②場所 D 県内のホール
- ③対象 中学校教員 130 名 (アンケート回収 99 名)
- ④定着研修会としての構造

表 7 研修会 d のカリキュラム構造

時間	研修会としての行程	定着研修会としてのカリキュラム
9:15- 12:15	【講義】	
	1. 事前アンケート記入	事前アンケート入力
	2. はじめに～教育の動向～ ・「令和の日本型学校教育」(中教審答申) ・第3期スポーツ基本計画 ほか	
	3. 保健体育科の授業づくり ・学習指導要領の趣旨 ・体育, 保健体育の役割 ・授業づくりの視点 ほか	
	(休憩)	
	4. アダプテッド体育 ・「アダプテッド体育」とは ・ハンドブックの紹介 ・生徒の「困り感」への対応 ・実践事例の紹介 接戦のゲームづくり ゆるスポーツ ・「アダプテッド体育」の教材紹介	アダプテッドの理論的位置づけ HPの紹介 演習(対話)
	5. まとめ 事後アンケートの記入	HPの紹介 事前アンケート入力

⑤定着研修会の評価

表 8 研修会 d 受講者の尺度得点の変化 (n=99)

対応のあるT検定(すべて df = 98)

	事前	事後	T値
アダプテッドの理解度(4点満点)	2.04±1.17	3.84±0.42	17.71***
インクルーシブの理解度(4点満点)	2.65±0.88	3.68±0.53	12.4***
障害のポジティブイメージ(6点満点)	2.57±1.91	4.75±1.41	10.42***
障害者スポーツのポジティブイメージ(6点満点)	4.74±1.42	5.07±1.23	2.47**
アダプテッド体育の主体性(6点満点)	3.72±1.33	3.60±1.14	0.81*
アダプテッド体育への実践力(6点満点)	5.53±0.76	5.75±0.83	2.46**

\*\*\* $p < .001$ , \*\* $p < .01$ , \* $p < .05$

#### 4-5) 【研修会 e】 九州ブロック・E 県体育研究所主催の研修会

- ①日時 2023年8月
- ②場所 E 県内の体育施設の体育館
- ③対象 小学校通常学級 5 名、小学校特別支援学級 13 名、中学校通常学級 1 名  
(アンケート回収 19 名)
- ④定着研修会としての構造

表 9 研修会 e のカリキュラム構造

時間	研修会としての行程	定着研修会としてのカリキュラム
9:45   10:45	<b>【講義】</b> 1 私とアダプテッド・スポーツ(自己紹介) 2 スポーツをすることは人権 3 障害のある人のためのインクルーシブ教育 4 障害のある子どもたちの声 5 インクルーシブな体育を実現するには 6 アダプテッドとは?アダプテッドの理論 7 アダプテッドと合理的配慮 8 アダプテッドの進め方	事前アンケート記入  障害児体育の実態の理解 アダプテッドの理論的位置づけ
11:00   15:30	<b>【演習】</b> 1. 導入編 2. アダプテッド演習 3. インクルーシブ演習	アダプテッド演習 インクルーシブ演習
15:30   16:00	<b>【講義】</b> まとめ	事前アンケート記入

#### ⑤定着研修会の評価

表 10 研修会 e 受講者の尺度得点の変化 (n=19)

対応のあるT検定(すべてdf = 18)

	事前	事後	T値
アダプテッドの理解度(4点満点)	1.47±0.77	3.79±0.71	10.67**
インクルーシブの理解度(4点満点)	3.05±0.85	3.89±0.46	4.40**
障害のポジティブイメージ(6点満点)	2.74±2.13	4.53±1.71	4.23**
障害者スポーツのポジティブイメージ(6点満点)	4.84±1.50	5.21±1.13	1.29
アダプテッド体育の主体性(6点満点)	4.21±1.47	3.89±1.05	0.90
アダプテッド体育への実践力(6点満点)	5.58±0.51	5.79±0.42	2.19*

\*\* p<.01, \* p<.05

4-6) 【研修会 f】 四国ブロック・F 県小学校体育連盟主催の研修会

- ①日時 2023 年 8 月
- ②場所 F 県内体育施設の体育館
- ③対象 小学校教員 240 名（アンケート回収 87 名）
- ④定着研修会としての構造

表 11 研修会 f のカリキュラム構造

時間	研修会としての行程	定着研修会としてのカリキュラム
13:00 ～ 13:30	<b>【講義】</b> ・ 障害児体育の実態について ・ アダプテッド体育の考え方 ・ アダプテッドの実践について	事前アンケート記入  障害児体育の実態の理解 アダプテッドの理論的位置づけ
13:30 ～ 15:30	<b>【演習・実技】</b> ・ ボッチャ ターゲット型スポーツの面白さ・魅力 視覚障害の体験、介助の方法など ボッチャをアダプテッドしてみよう インクルーシブ体育を想定して  <b>【まとめ】</b> ・振り返り、まとめ	アダプテッド演習 インクルーシブ演習   HPの紹介 事後アンケート記入

⑤定着研修会の評価

表 12 研修会 f 受講者の尺度得点の変化 (n=87)

対応のあるT検定(すべて df = 86)

	事前	事後	T値
アダプテッドの理解度(4点満点)	2.7±1.03	3.86±0.38	10.59***
インクルーシブの理解度(4点満点)	3.18±0.7	3.64±0.57	6.16**
障害のポジティブイメージ(6点満点)	2.67±1.60	3.38±1.7	3.28**
障害者スポーツのポジティブイメージ(6点満点)	4.91±1.41	5.44±0.69	3.22**
アダプテッド体育の主体性(6点満点)	3.29±1.66	4.41±1.18	6.21***
アダプテッド体育への実践力(6点満点)	5.56±1.15	5.72±0.83	1.32

\*\*\* $p < .001$ , \*\* $p < .01$ , \* $p < .05$

4-7) 【研修会 g】 関西ブロック・G 県 g 市人権研究会主催の研修会

- ①日時 2023 年 8 月
- ②場所 g 市立小学校体育館
- ③対象 教員 31 名 (アンケート回収 31 名)
- ④定着研修会としての構造

表 13 研修会 g のカリキュラム構造

時間	研修会としての行程	定着研修会としてのカリキュラム
9:30 ~ 10:30	【演習・実技】ポッチャ ・ ボール慣れ ・ 投球練習 (紙乗せゲーム) ・ ミニコートでのゲーム	事前アンケート記入  インクルーシブ演習 アダプテッド演習 HPの紹介
10:30 ~ 11:30	【講義】 ・ 体育スポーツにおけるルールの考え方 ・ パラスポーツにみる工夫 (アダプテッドスポーツとは?) ・ 合理的配慮と基礎的環境整備 ・ インクルーシブな体育・スポーツの実践に向けて	障害児体育の実態の理解 アダプテッドの理論的位置づけ  事後アンケートの記入

⑤定着研修会の評価

表 14 研修会 g 受講者の尺度得点の変化 (n=31)

研修会の評価 (n=31) 実技+講義	事前	事後
アダプテッドの理解度 (4点満点)	1.84±0.86	3.94±0.25
インクルーシブの理解度 (4点満点)	3.48±0.57	3.87±0.34
障害のポジティブイメージ (6点満点)	3.03±1.70	4.52±1.36
障害者スポーツのポジティブイメージ (6点満点)	4.84±1.19	5.06±0.68
アダプテッド体育の主体性 (6点満点)	3.80±1.52	4.71±1.22
アダプテッド体育への実践力 (6点満点)	5.58±0.81	5.94±0.25

#### 4-8) 【研修会 h】 関東ブロック・h 大学主催の公開講座

①日時 2023 年 8 月

②場所 H 大学体育館

③対象 教員 24 名 (アンケート回収 20 名)

内訳：特別支援学校 13 名、小学校特別支援学級 5 名、その他 2 名

④定着研修会としての構造

表 15 研修会 h のカリキュラム構造

時間	研修会としての行程	定着研修会としてのカリキュラム
9:00   12:00	【講義】 アダプテッドとは？ 障害児の体育指導の意義と理念 肢体不自由のある子どもの体育とインクルージョン 発達障害のある子どもの体育とインクルージョン	事前アンケート記入  障害児の体育指導の意義と理念 アダプテッドとは インクルーシブとは
13:00   16:00	【実技演習】 肢体不自由のある子ども、発達障害のある子ども の体育とインクルージョン  まとめ	アダプテッド演習 インクルーシブ演習  事後アンケート記入

⑤定着研修会の評価

表 16 研修会 h 受講者の尺度得点の変化 (n=20)

対応のあるT検定 (すべてdf = 19)

	事前	事後	T値
アダプテッドの理解度 (4点満点)	2.45±0.76	3.85±0.37	7.63**
インクルーシブの理解度 (4点満点)	3.25±0.79	3.80±0.41	4.07**
障害のポジティブイメージ (6点満点)	2.40±1.67	3.50±1.82	2.60*
障害者スポーツのポジティブイメージ (6点満点)	4.05±1.82	4.80±1.20	1.35
アダプテッド体育の主体性 (6点満点)	3.20±1.51	3.70±0.98	1.16
アダプテッド体育への実践力 (6点満点)	5.70±0.57	5.90±0.31	1.71

\*\*  $p < .01$ , \*  $p < .05$

4-9) 【研修会 i】 東北ブロック・I 県教育委員会主催の研修会

①日時 2023 年 8 月

②場所 I 県内体育施設の体育館

③対象 教員 30 名 (アンケート回収 20 名)

内訳：特別支援学校 5 名、小学校通常学級 7 名、中学校特別支援学級 4 名、  
高等学校 3 名、その他 1 名

④定着研修会としての構造

表 17 研修会 i のカリキュラム構造

時間	研修会としての行程	定着研修会としてのカリキュラム
10:00   11:30	【講義】 1 私とアダプテッド・スポーツ (自己紹介) 2 スポーツをすることは人権 3 障害のある人のためのインクルーシブ教育 4 障害のある子どもたちの声 5 インクルーシブな体育を実現するには 6 アダプテッドとは?アダプテッドの理論 7 アダプテッドと合理的配慮 8 アダプテッドの進め方	事前アンケート記入  障害児体育の実態の理解 アダプテッドの理論的位置づけ
11:40   15:00	【演習】 1. 導入編 2. アダプテッド演習 3. インクルーシブ演習	アダプテッド演習 インクルーシブ演習
15:10   15:45	【講義】 まとめ	事前アンケート記入

⑤定着研修会の評価

表 18 研修会 i 受講者の尺度得点の変化 (n=20)

対応のある T 検定 (すべて df = 19)

	事前	事後	T 値
アダプテッドの理解度 (4 点満点)	2.10±1.02	3.80±0.41	8.23**
インクルーシブの理解度 (4 点満点)	3.10±0.97	3.85±0.37	3.68**
障害のポジティブイメージ (6 点満点)	2.80±2.28	4.30±1.75	3.47**
障害者スポーツのポジティブイメージ (6 点満点)	5.10±0.85	5.25±0.44	0.72
アダプテッド体育の主体性 (6 点満点)	3.60±0.82	4.10±1.02	2.03
アダプテッド体育への実践力 (6 点満点)	5.65±0.49	5.90±0.31	2.52**

\*\*  $p < .01$ , \*  $p < .05$

4-10) 【研修会 j】 中国ブロック・J 県障がい者スポーツ協会主催の研修会

①日時 2023 年 8 月

②場所 J 県内障害者リハビリテーション施設

③対象 教員 18 名 (アンケート回収 18 名)

内訳：特別支援学校 11 名、小学校通常学級 1 名、中学校通常学級 1 名、  
中学校特別支援学級 1 名、高等学校 4 名

④定着研修会としての構造

表 19 研修会 j のカリキュラム構造

時間	研修会としての行程	定着研修会としてのカリキュラム
16:15   19:15	【講義】 障害児の体育指導の意義と理念 アダプテッドとは？ インクルーシブとは？	事前アンケート記入 障害児の体育指導の意義と理念 アダプテッドとは インクルーシブとは 事後アンケート記入

⑤定着研修会の評価

表 20 研修会 j 受講者の尺度得点の変化 (n=18)

対応のあるT検定 (すべてdf = 17)

	事前	事後	T値
アダプテッドの理解度 (4点満点)	2.39±1.14	4.00±0.00	5.97**
インクルーシブの理解度 (4点満点)	3.44±0.62	4.00±0.00	3.83**
障害のポジティブイメージ (6点満点)	2.67±1.94	4.78±1.22	4.03**
障害者スポーツのポジティブイメージ (6点満点)	5.11±1.13	5.56±0.51	1.81
アダプテッド体育の主体性 (6点満点)	3.22±1.56	3.44±1.34	0.70
アダプテッド体育への実践力 (6点満点)	5.72±0.46	5.50±1.42	0.64

\*\*  $p < .01$ , \*  $p < .05$

#### 4-11) 【研修会 k】 東北ブロック・K 県教育委員会主催の研修会

①日時 2023 年 9 月

②場所 K 県内体育施設体育館

③対象 教員 30 名（アンケート回収 18 名）

内訳：特別支援学校 9 名、小学校特別支援学級 4 名、中学校通常学級 1 名、  
中学校特別支援学級 2 名、高等学校 2 名

④定着研修会としての構造

表 21 研修会 k のカリキュラム構造

時間	研修会としての行程	定着研修会としてのカリキュラム
10:00   11:30	<b>【講義】</b> 1 私とアダプテッド・スポーツ（自己紹介） 2 スポーツをすることは人権 3 障害のある人のためのインクルーシブ教育 4 障害のある子どもたちの声 5 インクルーシブな体育を実現するには 6 アダプテッドとは？アダプテッドの理論 7 アダプテッドと合理的配慮 8 アダプテッドの進め方	事前アンケート記入  障害児体育の実態の理解 アダプテッドの理論的位置づけ
11:40   16:00	<b>【演習】</b> 1. 導入編 2. アダプテッド演習 3. インクルーシブ演習	アダプテッド演習 インクルーシブ演習
16:15   16:45	<b>【講義】</b> まとめ	事前アンケート記入

⑤定着研修会の評価

表 22 研修会 k 受講者の尺度得点の変化 (n=18)

対応のあるT検定(すべてdf = 17)

	事前	事後	T値
アダプテッドの理解度(4点満点)	1.50±0.71	3.83±0.38	11.78**
インクルーシブの理解度(4点満点)	3.22±0.65	3.67±0.49	2.41*
障害のポジティブイメージ(6点満点)	3.11±1.97	4.22±1.80	1.82
障害者スポーツのポジティブイメージ(6点満点)	4.72±1.64	5.17±0.38	1.05
アダプテッド体育の主体性(6点満点)	3.56±0.86	3.89±0.83	1.37
アダプテッド体育への実践力(6点満点)	5.56±0.98	5.89±0.32	1.45

\*\*  $p < .01$ , \*  $p < .05$

4-12) 【研修会Ⅰ】 九州ブロック・L県教育委員会主催の研修会

①日時 2023年10月

②場所 L県内体育施設の体育館

③対象 教員30名（アンケート回収30名）

内訳：特別支援学校4名、小学校通常学級1名、中学校通常学級16名  
高等学校9名

④定着研修会としての構造

表23 研修会Ⅰのカリキュラム構造

時間	研修会としての行程	定着研修会としてのカリキュラム
10:15 ～ 10:45	<b>【講義】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>変化への対応 (学習指導要領、第3期スポーツ基本計画)</li> <li>保健体育科の授業づくりについて</li> <li>アダプテッド体育の考え方と実践例</li> <li>今後の授業に向けて</li> </ul>	事前アンケート記入  障害児体育の実態の理解 アダプテッドの理論的位置づけ
10:45 ～ 12:30	<b>【演習・実技】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>体ほぐしの運動(仲間との交流を中心に) コミュニケーション・ワーク</li> <li>ポッチャ ターゲット型スポーツの面白さ インクルーシブ体育を想定して</li> </ul>	インクルーシブ演習
12:30 ～ 13:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボールラリーゲーム ゲーム: ネット型ゲーム 共創ラリー・・・やさしいゲーム</li> </ul>	アダプテッド演習
13:30 ～ 15:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>競争ラリー・・・接戦のゲーム</li> <li>シットニング・ボールゲーム アダプテッドスポーツの教材化 障がい者スポーツに関する理解 ゲーム本来の特性(魅力)に触れる</li> </ul>	HPの紹介 事後アンケート記入

⑤定着研修会の評価

表24 研修会Ⅰ受講者の尺度得点の変化 (n=30)

対応のあるT検定(すべてdf = 29)

	事前	事後	T値
アダプテッドの理解度(4点満点)	2.23±0.82	3.93±0.25	10.62**
インクルーシブの理解度(4点満点)	2.80±0.71	3.73±0.52	4.40**
障害のポジティブイメージ(6点満点)	2.53±1.66	4.80±1.24	6.91**
障害者スポーツのポジティブイメージ(6点満点)	4.73±1.53	5.03±0.67	1.10
アダプテッド体育の主体性(6点満点)	3.47±1.66	4.13±1.48	2.28*
アダプテッド体育への実践力(6点満点)	5.50±0.57	5.83±0.38	3.01**

\*\* p<.01, \* p<.05

4-13) 【研修会 m】 北信越ブロック・M 県体育センター主催の研修会

①日時 2023 年 10 月

②場所 M 県内体育施設の体育館

③対象 教員 60 名（アンケート回収 19 名）

内訳：特別支援学校 6 名、小学校通常学級 5 名、中学校通常学級 3 名、  
高等学校 2 名

④定着研修会としての構造

表 25 研修会 m のカリキュラム構造

時間	研修会としての行程	定着研修会としてのカリキュラム
10:00   11:30	【講義】 1 私とアダプテッド・スポーツ（自己紹介） 2 スポーツをすることは人権 3 障害のある人のためのインクルーシブ教育 4 障害のある子どもたちの声 5 インクルーシブな体育を実現するには 6 アダプテッドとは？アダプテッドの理論 7 アダプテッドと合理的配慮 8 アダプテッドの進め方	事前アンケート記入  障害児体育の実態の理解 アダプテッドの理論的位置づけ
11:30   12:00	【演習①】 1. アダプテッド演習 2. インクルーシブ演習	アダプテッド演習 インクルーシブ演習
13:00   15:30	【演習②】 1. アダプテッド演習 2. インクルーシブ演習	アダプテッド演習 インクルーシブ演習 事後アンケート記入

⑤定着研修会の評価

表 26 研修会 m 受講者の尺度得点の変化 (n=19)

対応のあるT検定(すべてdf = 18)

	事前	事後	T値
アダプテッドの理解度(4点満点)	2.00±0.94	4.00±0.00	9.25**
インクルーシブの理解度(4点満点)	3.42±0.69	3.95±0.23	3.29**
障害のポジティブイメージ(6点満点)	2.95±1.39	4.84±1.38	4.53**
障害者スポーツのポジティブイメージ(6点満点)	4.89±1.45	5.37±0.50	1.34
アダプテッド体育の主体性(6点満点)	4.11±1.41	3.68±1.00	1.29
アダプテッド体育への実践力(6点満点)	5.68±0.58	5.89±0.32	2.19*

\*\*  $p < .01$ , \*  $p < .05$

## 5) 今年度のまとめと指導者養成マニュアル試案の作成

### 5-1) 今年度のまとめ

今年度の成果の一つとして、総勢 514 名から事前事後のアンケートの回答を得ることができたことがあげられます。AS 尺度による変化を確認したところ、昨年までと同様、「障害者のポジティブイメージ」や「アダプテッド理解度」、「インクルーシブ理解度」は統計的な分析ができたすべての研修会で有意に数値が高くなっており、またその他の項目も基本的に数値が高くなる傾向が確認できました。本プロジェクトで作成した定着研修会コアカリキュラムの有効性を再確認することができました。一方で、細かく見てみると、地域ごとにアダプテッドの浸透の様子が異なっており、研修会を受講する前からアダプテッドをある程度理解している受講者が多い研修会もあれば、受講者のほぼすべてがアダプテッドを知らない研修会もありました。地域や受講生の特性に応じた研修会の在り方を今後も検討していく必要が伺えました。また昨年度も議論となった「アダプテッド主体性」については、障害のある子どもと関わった経験のある教員と関わったことがない教員によって異なることが仮説的に考えられました。具体的には、障害のある子どもと関わった経験のある教員は、研修会によって「本人への相談」や「本人へのサポート」を意識する傾向があり、関わったことがない教員は「詳しい先生やコーチ」「道具や場所」といった項目を重視する傾向が示されました。各受講者の背景なども考慮しながら研修会を組み立てられるとさらに質が高まると考えられます。

また今年度は、多様な研修会が対象となったため、講義のみの研修会も対象としました。講義のみでも一定の効果は確認できましたが、実技演習を重視してきたこれまでの経緯から、改めて実技研修の重要性が浮き彫りとなりました。例えば、これまでの研修会の参加者の感想から、多くの意見として、「日々の授業をこなすことに精一杯で（実技の内容を考えると）気が回らない」といったものがあります。それに対して、講義のみではなく実技演習の時間を確保することで、具体的なシチュエーションに基づく解決策がいくつか見えてくるため、日々の実践につながりやすくなるのではないかと考えられました。

#### ① 次年度に向けた指導者養成マニュアル（試案）の作成に向けて

以上の取り組みの成果を踏まえ、はじめて講師を担当する人が研修会を実施しやすくするために、指導者養成マニュアル（試案）の作成を試みることにしました。その際には、委

員より以下のような意見交換が行われました。

(1) 自分が研修会の講師を担当する上で指導者マニュアルに掲載してほしい事項

- ・ コアカリキュラムが重要だと思いました。研修会の時間は丸一日かけてというものもあるかと思えば、90分だけというところもあるかと思えますので、この部分が明確であればアレンジしやすい。
- ・ コアカリキュラムに追記するとしたら、アダプテッドにしろ、インクルーシブにしろ、「そのスポーツの魅力を損なわないこと」という文言は入れても良い。
- ・ 演習で、現場の先生方にアダプテッドの方法について考えてもらう際、学習指導要領を提示しても良いのではないかな。
- ・ 講義も実技も、基本的にガイドブックを使用して行うというイメージを持っていましたので、指導マニュアルもガイドブックを軸で具体的に作るのはいかがでしょうか。

(2) 指導者マニュアル作成のヒント（どのようなフォーマットがよいか、など）

- ・ スライドの例はあったら良いかなと思います。ガイドブックがそれに当たるとは思いますが、重要なものはパワーポイントの資料として活用できたら良い。
- ・ これまでの実技演習の内容資料はとても参考になります。一方でこれは研修会の講師資料としておくのが良いのかなとも思いました。事例集があると自分もできる気になるのですが、単なる How to にならないように、あくまでも考えるきっかけになるのであれば、良いのかなと思います。
- ・ どのようにコートや配置する等、場の設定の仕方を図示していただくとセッティングしやすくなる。
- ・ パワポのノート部分に、何を説明すると良いなどのコメントを入れておくと、どの指導者でも講義も担当できる。
- ・ ガイドブックと同じように、「もの」「人」「ルール」の項目で整理すると、ガイドブックも参考にしながら実技も行ってもらえる（講義でも紹介しておくが良い）と思いました。

## 5-2) 指導者養成マニュアル（試案）の作成

以上のような議論を経て、今年度作成する指導者養成マニュアル（試案）は、次の2つの資料を作成することとしました。

■ 講義用スライド

→ コアカリキュラムに記載されている「アダプテッドの理論的位置づけ」と「障害児体育の実態の理解」に該当する部分の基本事項を整理したスライドとし、ガイドブックの項目に照らし合わせて作成する。加えて、小学校の学習指導要領とのつながりを明確にするための説明も加える。教材コンテンツの各種アダプテッドの説明に関する動画も参考にする。

■ 実技演習用の事例集と略案

→ 第4回メール審議で作成した資料をもとに実技演習用の事例集を作成するとともに、各事例について略案を添付する。コアカリキュラムにあるように、教育実践では試行錯誤することやトライ&エラーを繰り返すことを想定し、段階を踏んだ実技演習を意識することを強調する。また教材コンテンツを活用した実技演習の実施についても盛り込む。

### 4-3. 教材コンテンツ WG

#### 1) 活動概要

令和5年度、教材コンテンツWGは、定着研修会の内容にリンクしたガイドブックの教材コンテンツと、定着研修会とガイドブックに関連付けられたHPの教材コンテンツを作成し、現場で活用することができるかを検証することを目的として活動しました。この目的を達成するために、新たにメンバーを加え、年間5回のWGミーティングを開催し検討を重ねるとともに、定着研修会WGとの連携をさらに密にして活動に取り組みました。結果として、本プロジェクトの実行計画で示された「有識者会議の諮問を受け、ガイドブックおよびHPに掲載する教材コンテンツの内容について検討し、公開作業を行う」とともに「実施された研修会に参加した参加者を対象に実施後に実施したアンケート調査の分析した結果について有識者会議に報告する」ことができました。

次年度の課題として、教材コンテンツについて更なる拡充が求められています。限られた教材・教具を活用し、障害のある児童生徒と障害のない児童生徒が共に学び、多様な楽しみ方を共有してできる喜びを分かち合い、満足できる実践を目指したコンテンツの作成が必要であると考えます。また、より多くの定着研修会の中でガイドブックとHPを教材として使用してもらうこと、そして受講後にアンケート調査の実施を継続し、教材コンテンツの内容を充実させる資料とするため、定着研修会WGと連携していく必要があります。

#### 2) 活動目標

定着研修会にリンクしたガイドブックの教材コンテンツと、研修会とガイドブックに関連づけられたHPの教材コンテンツを作成、拡充し、実際に現場で活動することができるかを検証することを目的としました。今年度は、中学校を対象とした教材コンテンツの種目を増やすこと、そして昨年度の課題として挙げられた「武道」のコンテンツ、障害起因別のコンテンツを新たに作成することを目標としました。ガイドブックとリンクさせた動画を作成し、HPで公開することを目標としました。ガイドブックとHPの評価測定について定着研修会においてアンケート調査を実施し、教材に対する評価と教材コンテンツへの要望を明らかにすることを目標としました。

### 3) WGメンバー

本事業目標を達成するため、教材コンテンツと評価測定について検討を重ねました。メンバーは以下のとおりです。

天野 和彦 筑波技術大学  
松原 豊 こども教育宝仙大学  
牧 舞美 兵庫県立芦屋特別支援学校  
綿引 清勝 東海大学  
阿部 崇 東京家政大学 (WG 座長)  
宗田 光博 埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園  
重藤誠市郎 東海大学  
早川菜緒美 埼玉県立特別支援学校塙保己一学園  
吉岡 尚美 東海大学 (WG 座長)  
澤江 幸則 筑波大学 (オブザーバー)

### 4) 活動内容

#### 4-1) アダプテッドを理解する導入としての役割を果たす教材の拡充

今年度は対象学年を「中学生」、対象の障害を「視覚障害」、「聴覚障害」、「知的・発達障害」、「肢体不自由」、「病弱・虚弱」の5障害別に、学習指導要領をもとに種目を選択して教材を作成しました。結果、視覚障害で「水泳」、「ボール運動」、知的・発達障害で「柔道」、「走り幅跳び」、肢体不自由で「ハードル走」、「キックベースボール」、「水遊び」、「水泳」、病弱・虚弱で「体づくり運動」、の8個のコンテンツを追加することができました。本年度の課題の一つであった「武道」については、知的・発達障害で「柔道」を作成しました。また、新たに障害起因別として「聴覚障害」、「脊椎損傷等」、「脳性まひ」の3個のコンテンツを作成し、合計11個の教材コンテンツを作成しました。ガイドブックはPDF版でHP (<https://adaptedproject.jimdofree.com/>) に公開し、ダウンロードできるようにしています。また、上記の種目すべてについて、関連づけられたアダプテッド例の動画を作成してHPに順次公開しています。

#### 4-2) アダプテッド定着研修会における教材の活用

本年度は定着研修会 WG との連携を深め、2023 年度に実施されたアダプテッド定着研修会において、HP で公開している紹介動画とガイドブックを教材として活用しました。研修を実施した講師の先生方からは理論ならびに実技講習で有効であったとコメントをいただいています。また、関東ブロック 2 県、中部ブロック 1 県、四国ブロック 1 県、九州ブロック 1 県の 5 県で開催された定着研修会においてアンケート調査を実施することができました。

#### 4-3) HP 教材コンテンツとガイドブックの評価測定

作成した HP 教材コンテンツとガイドブックについてアンケート調査を実施しました。アンケート調査への協力については、前述の 5 県で開催された定着研修会の中で参加者に対しガイドブックと HP の紹介をしてもらい、アンケートに回答してもらうよう依頼しました。その結果、324 名の参加者から以下のような意見を得ることができました。

表 27 ガイドブックと HP に関する評価 (n=324)

ガイドブックについて(n=324)	有効回答数	Ave. (SD)	とても	やや	あまりそう	まったくそう
			そう思う 4	そう思う 3	思わない 2	思わない 1
Q1. ガイドブックに記載されている内容は理解しやすい (十分でしたか?)	314	3.52(±.51)	166	146	2	
Q2. ガイドブックのデザインは見やすい	314	3.44(±.56)	150	153	11	
Q3. ガイドブックの内容についてさらに知識を深めたい	312	3.67(±.48)	211	100	1	
Q4. 障害のある児童・生徒の体育授業で困ったときに、このようなガイドブックを参考にしようと思う	315	3.77(±.45)	245	68	1	1
Q5. 障害のある児童・生徒の体育授業で困っている他の教員に、このようなガイドブックを勧めようと思う	315	3.70(±.47)	223	90	2	

ホームページについて(n=324)	有効回答数	Ave. (SD)	とても	やや	あまりそう	まったくそう
			そう思う 4	そう思う 3	思わない 2	思わない 1
Q1. 調べたいコンテンツを見つけやすい	313	3.43(±.55)	143	161	9	
Q2. HPの内容で研修会で学んだことの理解が深まる	313	3.60(±.51)	192	118	3	
Q3. 動画で紹介されていたアダプテッド体育の実践の工夫例は参考になる	316	3.77(±.42)	243	73		
Q4. アダプテッド体育の工夫例を紹介した動画の説明はわかりやすい	316	3.65(±.52)	210	100	6	

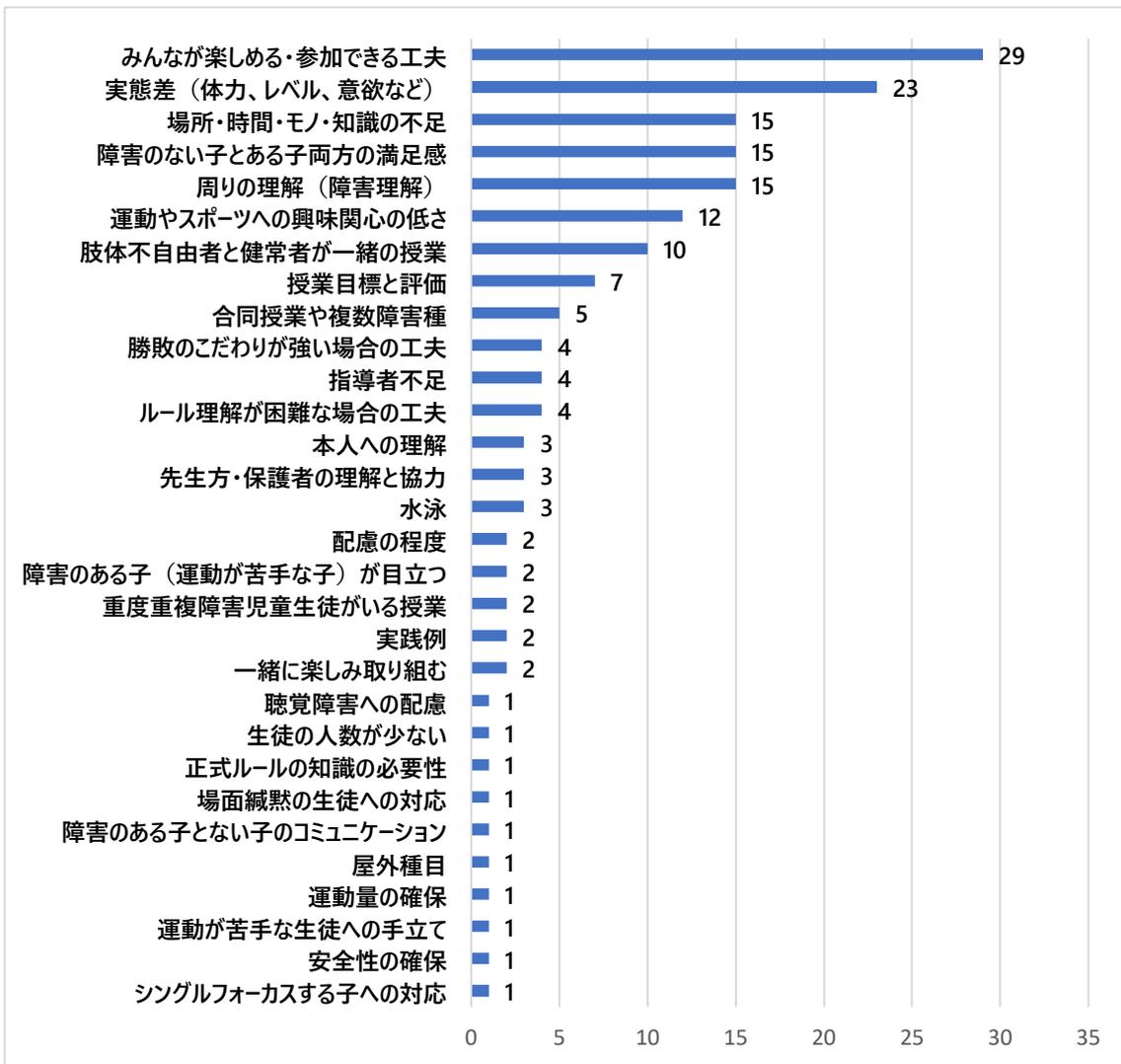


図2 インクルーシブ体育の実践について、過去に困ったり悩んだりしたこと、または今後実践する時に想定される困難さ（自由記述）

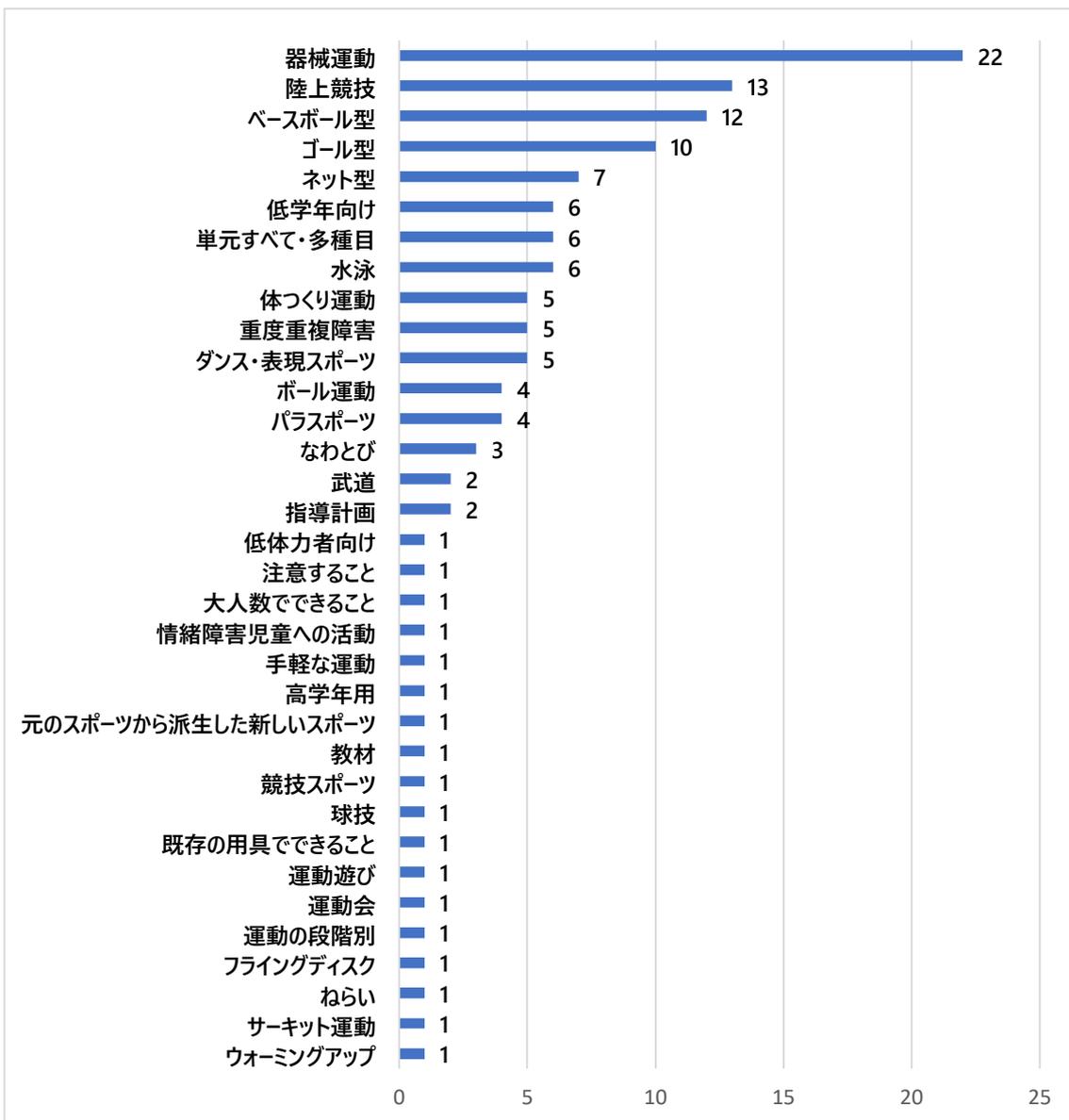


図3 「Challenge アダプテッド」のホームページやアダプテッド体育の例を紹介する動画に含めて欲しい内容（単元、種目、理論など）自由記述

上記の結果から、ガイドブックとHPに関する質問に関しては4段階スケールで3.43～3.77の評価を受けました。ガイドブックとHPのコンテンツについては概ね高評価が得られていることがわかりました。

インクルーシブ体育の実践について、過去に困ったり悩んだりしたこと、または今後実践する時に想定される困難さに関する自由記述では、「みんなが楽しめる・参加できる工夫」

29名、「実態差（体力・レベル・意欲など）」23名、「場所・時間・モノ・知識の不足」15名、「障害のない子とある子両方の満足感」15名、「周りの理解（障害理解）」15名について比較的多くの回答が得られました。実態差のある集団での体育活動を実践する折に、限られた教材を使用し、みんなが参加でき、楽しめ、満足できることの難しさが明らかとなりました。

また、動画に含めて欲しいアダプテッドの体育例に関する自由記述では、「器械運動」22名、「陸上競技」13名、「ベースボール型」12名、「ゴール型」10名について比較的多い回答が得られましたが、全体的には幅広い種目の要望があることがわかりました。

## 5) まとめと今後の課題

令和5年度は、教材コンテンツを作成、拡充することができ、新たに「武道」、「障害起因別」コンテンツを作成することができました。また、ガイドブックとHPに関する評価については、一定の評価は得られたと考えます。

そこで、令和6年度に取り組む課題として、①すべての定着研修会でガイドブックとHPの動画を教材として使用してもらうこと、②研修会の受講後アンケートに教材コンテンツに関する質問項目を含めてもらうことを提案し、評価測定を進めます。同時に、教材コンテンツの更なる拡充を目指し、①アンケート調査で希望が多かった種目を中心に、教材を可能な障害種で作成すること、②「中学校版」の教材を可能な障害種で作成すること、③「障害起因版」の教材を可能な障害種で作成してもらうこと、④学校にある教材・教具を使ったアダプテッドの応用に関する情報をコンテンツに追加してもらうことを継続検討しながら進めていきます。

## 5. 今後の課題

今後の課題は、2023年度に作成したアダプテッド定着研修会マニュアル（試案）を軸として、各地域の団体や組織がそれぞれのニーズに合わせて主体的に研修会を行うことができるかどうかの検証です。具体的には、これまでに研修会の講師経験がない人に、研修会マニュアル（試案）を活用した研修会講師を担当してもらい、初めて講師を担当する場合の不十分な点や課題点を整理し、より研修会で活用しやすいマニュアルとして改良することにあります。

加えて、研修会を通して各地域の教育委員会等と連携し、研修会の継続的な実施や教材コンテンツを活用した取り組みの先進事例の収集などを行い、それらの成果も広く周知していくことです。さらに、本研究の成果を教育現場にとどめず、一般のスポーツやパラリンピック競技など障害者のスポーツ指導に携わる指導者育成にも活用できるよう検討していくことも念頭に入れておく必要があります。

これらの課題を達成することで、まずは第2クールの数値目標を達成するとともに、第3クールに向けた課題を示していきたいと考えています。

## 6. 附録資料

### 6-1. 有識者会議議事メモ

令和5年度アダプテッド定着プロジェクト 有識者会議 議事メモ

1. 日時 令和5(2023)年 8月2日(水) 10時30分から12時
2. 場所 Zoom®によるオンライン  
<https://us02web.zoom.us/j/86969905920?pwd=QkdMTWRwREFyKzZjZHdWRkVncFoyQT09>
3. 出席者 齊藤 澤江 藤田 金山 内田 吉永 吉岡 阿部 村上 今城(10名)
4. 議題
  - 1) 冒頭あいさつ(プロジェクトリーダー 齊藤)
  - 2) メンバー紹介
  - 3) 本プロジェクトのこれまでの経緯と目標  
澤江委員より、事業計画書に沿って説明があった
  - 4) 各WGの本年度課題  
澤江委員より、事業計画書に沿って全体像の説明を行い意見交換をした。  
定着研修会WGの村上委員、今城委員より今年度の進め方についての説明があり、アンケートの実施方法や対象となる研修会の確認を行なった。  
教材コンテンツWGの阿部委員、吉岡委員より、今年度の進め方についての説明とHP掲載作業にかかる謝金についての確認があった。
  - 5) スケジュール  
資料2(実施日程表)をもとに、今年度は5-6回の有識者会議とWG会議を実施する計画であることが確認された。WG回数は実態に応じて柔軟に設定する。ただし、プロジェクト開始時期が遅れたことから、会議の間隔を詰めるなどで対応していくことになる。
  - 6) 予算  
委託金額は4,184,144円であり、人件費、会議謝金、旅費交通費が主な内容であることが説明された。
  - 7) その他  
第2回有識者会議は、WGの進捗を考慮し9月25日(月)17時15分~とした。

令和5年度アダプテッド定着プロジェクト 有識者会議 議事録

1. 日時 令和5(2023)年 9月25日(月) 17:15-18:35

2. 場所 Zoom®によるオンライン

<https://us02web.zoom.us/j/86969905920?pwd=QkdMTWRwREFyKzZjZHdWRkVncFoyQT09>

(ミーティング ID: 869 6990 5920 パスコード: 580915)

出席: 齊藤 藤田 金山 内田 吉永 今城 村上 阿部 吉岡

欠席: 澤江

3. 議題

1) 各WGからの進捗状況

定着研修会(村上・今城)

- ・13件の研修会を実施済みであり資料をもとに説明がなされた
- ・アンケートデータの分析に時間を要していることが報告され、それに対する補助業務経費について承認された
- ・マニュアル作成・講師養成の視点から本プロジェクト委員も研修会の参観をしていく

教材コンテンツ(阿部・吉岡)

- ・第1回WG会議の報告をもとにYoutubeにおける問い合わせと回答について議論があり、本件についてはWG(吉岡)とプロジェクト代表(齊藤)でいったん預かることとした。同時にHPにある問い合わせについても要否を検討していくことになった。
- ・HPのコンテンツが次年度以降上限に達することが報告され、将来構想と合わせて検討していくことになった。

2) 予算執行について

- ・事業計画に合わせ、研修会への参加(旅費等)についても執行できるので、決まり次第手続きをして欲しい(齊藤)

3) その他

- ・スポーツ教育学会においてもダイバーシティとインクルージョンをテーマとして扱われているが、教科教育のインクルージョンとアダプテッドでのインクルージョンとの間で解釈のずれがあることから、今後の動向を注視していく必要がある(藤田)
- ・日本の喫緊の課題は中学校、男女共習であり性別を乗り越えた体育のあり方(吉永)

次回は11月7日(火)17:00から

以上

令和5年度アダプテッド定着プロジェクト 第3回有識者会議 議事録

1. 日時 令和5(2023)年 11月7日(火) 17:00-18:15

2. 場所 Zoom®によるオンライン

<https://us02web.zoom.us/j/86969905920?pwd=QkdMTWRwREFyKzZjZhdWRkVncFoyQT09>

(ミーティング ID: 869 6990 5920 パスコード: 580915)

出席: 齊藤 澤江 藤田 金山 内田 吉永 今城 村上 阿部 吉岡

3. 議題

1) 各WGからの進捗状況

定着研修会(村上・今城)

- ・今年度14件の研修会を実施済み、アンケートの回答者も500名を見込んでいる。
- ・アンケート結果を含め、第2回WGはメール審議で意見交換をしている。
- ・事後のアンケート実施時間の確保が難しい(内田)

教材コンテンツ(阿部・吉岡)

Q 障害に特化した形でのコンテンツ作成を試みているが、この方向性で良いか。

- ・通常級で何をどのくらいという設定(50m→20m等)があるのでわかりやすい
  - ・例は脊髄損傷だが二分脊椎にも応用できるなどがあると良い
  - ・課題設定型、ワーク形式はどうか
  - ・本人に対するアダプテッドはよくわかるので、これがどういう学びに繋がるのかという発展例、他児も巻き込んだ授業作りなど
  - ・孤立させないアダプテッドのしかた、生徒に考えて答えを出させる授業展開など
- 定着研修会では考え方を学び、具体例はコンテンツがあることを伝えていくという役割

2) 予算執行について(齊藤)

資料に基づいて予算の執行状況が説明された。

会議謝金、人件費(分析等の雇用も可能)、交通費、消耗品費など執行可能

計画的に使用して欲しい

3) その他

次回 12月21日(木) 18時から

以上

## 令和5年度アダプテッド定着プロジェクト第4回有識者会議議事録

1. 日時 令和5(2023)年 12月21日(木) 18時~19時30分

2. 場所 Zoom®によるオンライン

<https://us02web.zoom.us/j/86969905920?pwd=QkdMTWRwREFyKzZjZHdWRkVncFoyQT09>

(ミーティングID: 869 6990 5920 パスコード: 580915)

### 3. 議題

#### 1) 各WGからの進捗状況

##### 定着研修会WG(村上・今城)

今年度実施済み14件のうち、愛媛県、香川県、長崎県開催分についての報告がなされた。

また、今後3件の実施予定があることが報告され、評価アンケートの主体性の変化についてや、研修内容、研修会のターゲット、今後の講師養成、報告書の内容に関して議論した。

##### 教材コンテンツWG(阿部・吉岡)

障害別のスライドについてのWGでの今後の方向性の確認がなされ、今後はアダプテッドの視点をどう体育で継続的に扱っていきけるかという環境づくりをコンテンツにどのように反映させていくかに関して議論がなされた。また、定着研修会において実施されたガイドブックや動画コンテンツに関するアンケート結果が示され、概ね肯定的であることが確認された。今後はWGメンバーの負担も考慮しつつ、新たなメンバーの追加やWGを立ち上げるなどについても検討していく必要がある。

#### 2) 予算執行状況

事業計画は概ね順調に進んでいることが報告された。研修会の実施形式との兼ね合いで、人件費と旅費・交通費に残額が見込まれる。

#### 3) その他

次年度に向けての構想について意見交換がなされ、次回の有識者会議までに提案できるよう検討していく(澤江)。必要に応じて、第5回をメール審議とし、次年度構想について意見交換をすることとなった。

次回会議 3月5日(火)16時~

2月に第5回としてメール会議を設定する場合がある。

2023.12.21 齊藤

記

1. 日時 令和6(2024)年 3月8日(金) 10時~11時20分

2. 場所 Zoom®によるオンライン

(ミーティングID: 849 5371 4011 パスコード: 680241 に変更して開催)

3. 議題

1) 各WGからの進捗状況について

定着研修会WG(村上・今城)

配布資料に基づき、実施した研修会の報告と課題について説明がなされ、委員間での意見交換がなされ、定着研修会でのコアカリキュラムをもとにした「講師向けのマニュアル試案」を今年度のまとめとすることが確認された。

教材コンテンツWG(阿部・吉岡)

配布資料に基づき、今年度作成したコンテンツの報告と4つの確認事項が提示され、委員間で意見交換を行なった。インクルーシブ考え方について国際的動向と本プロジェクトの前提となる「障害者スポーツ推進」との関連性を前文で示した上で、多様性、汎用性という視点で進めていくことが確認された。

2) 予算執行状況(齊藤)

プロジェクト開始が遅れたことに伴う事務担当者の人件費減と会議のオンライン開催に伴う旅費・交通費減を除き、概ね計画通り執行される見込み。

3) 報告書(齊藤)

資料をもとに、内容構成、執筆依頼を行った。

4) 将来構想(齊藤・澤江)

資料をもとに、全体構想と現在地に関する情報共有を行なった。

4. 会議資料

定着研修会WG資料

教材コンテンツWG資料

将来計画案\_ver2

令和5年度事業成果報告書作成のお願い

以上

6-2. アダプテッド定着研修会マニュアル試案  
別冊を参照してください

